

# 岐阜県中山間農業研究所ニュース

2017年度 第2号

試験研究用の栽培作物は、すくすく育ち始めていて、今年も順調なスタートを切ることができました。一方で、西日本では既に豪雨被害が出ており、『この夏、台風の発生は多いの？、ゲリラ豪雨は？、猛暑になるの？』と、気象動向が気になり、農作物に悪影響が出ないことを願うこの頃です。

さて今回は、中山間地域の農業生産者の皆さんに役立つ新技術の開発のための研究について紹介します。これらの内容に興味がある方は、本号記事の最後に記載してある中間検討会に参加し、ご意見いただけると幸いです。



©岐阜県

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重2-6-56  
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751

中津川支所 〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林鍛冶屋平643-1  
TEL: 0573-68-2036 FAX: 0573-68-3116  
<http://www.k-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

## ● 県産「コシヒカリ」の食味向上

近年、消費者等のお米の食味への関心が高まっています。

昨年度、日本穀物検定協会が発表してお米の食味ランキングで、飛騨産「コシヒカリ」は3年連続、美濃産「コシヒカリ」は2年連続「特A」評価を獲得できました。この評価を今後も維持し、さらにおいしいお米を生産するために、当研究所では「コシヒカリ」の食味向上のための取り組みを行っております。

本年度は、苗の移植時期を遅くすること、登熟期間の水管理（かけ流し）が「コシヒカリ」の食味に与える影響について調査を行っています。

【本所作物担当 可児 友哉】



登熟期のコシヒカリ



食味分析機器（静岡製機製）

## ● 夏秋トマト独立ポット耕技術確立に向けて

当研究所では、既開発の夏秋トマト「独立袋栽培」をさらに発展させた県オリジナルの多収穫栽培システムの開発に、本所・支所連携で取り組んでいます。

「清流の国ぎふ・農畜水産物ナンバー1プロジェクト事業」を活用し研究している「独立ポット耕」の所内試験では、4月下旬定植で20t/10a、5月下旬～6月上旬セル苗定植で15t/10aの収量を達成しました。

本年度は、現地試験を飛騨～恵那まで広域に、また、試験規模を拡大しての課題抽出や、マニュアル化のためのデータ収集などを行い、トマト農家に利用していただける技術確立を目指しています。

【支所野菜担当 熊崎 晃】

【本所野菜担当 浅野 雄二】



中津川市内における現地試験圃



高山市内における現地試験圃

今年度も中間検討会を開催します。関係者の皆様、是非お越しください。

各担当が実施している研究について、栽培状況を確認いただきながら説明し、研究内容に対する意見交換をしたいと思います。

支所・本所それぞれで行いますが、日にちが近いので開催場所を間違えないようお願いします。

◆支所(中津川市)：8月23日(水) 13時30分～(担当：鍵谷)

◆本所(飛騨市)：8月24日(木) 13時30分～(担当：宮本)

